

広報紙・市の部



福知山市 広報ふくちやま8月号



(審査委員講評)

戦後80年特集。ハガキや人形などの「モノ」が語る「ものがたり」の手法、とりわけ葉書の肉筆の訴求力には、リアルな強さがあります。また、人形を受け継いできた姿勢から、この地域の地に足のついた暮らしが偲ばれて、地域の魅力まで伝わってきました。インタビューも丁寧で、時間をかけて準備してきたことが伺えます。



京丹後市 広報京丹後4月号



(審査委員講評)

移住と生活のデザイン、それを受け入れるコミュニティのあり方が、ポップで明るいデザイントーンとマッチして好感が持てます。「新コミュ」と「廣瀬さんインタビュー」、どっちが先かで迷われていたようですが、インタビューからスタートした方が読み物として力があつたかもしれませんね。14ページの「U・Iターン」の記事も特集にまとめてしまえば、さらに厚みのある記事になったかも。

知事賞

久御山町 広報くみやま6月1日号

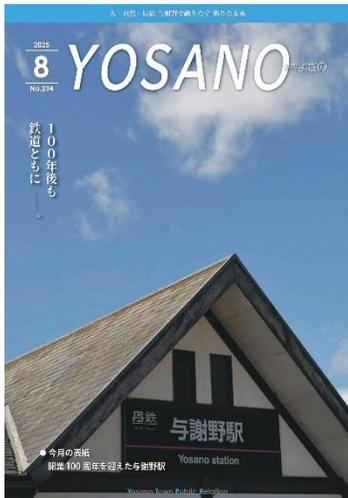


(審査委員講評)

久御山の農と食を多角的にとらえた企画。表紙と第一見開きの写真に力があります。取材対象者の選定もよく、インタビューを通して「食を大切にする」という生活文化がある久御山町の好感度もアップしているように感じます。給食シーンも特集の締めとして効果的。さて、今日は何を食べようか、と考えてしまいました。

会長賞

与謝野町 広報よさの8月号



(審査委員講評)

与謝野駅100周年の特集、地元の皆さんが駅と鉄道を大切にしている気持ちが伝わってきました。モノクロページであることをうまく利用して、時代の流れなども表現できています。そのほかのページも、コーナーごとのまとまりがあって、レイアウトにセンスを感じます。

知事賞

福知山市 広報ふくちやま 6月号 p 1
あしだ たかし
(芦田 聖さん)



(審査委員講評)

「一緒に転がしてみるか?」というキャッチコピーとメインの人物の問いかけるような表情が実にマッチしていて、写真を見た者の想像力が膨らむ秀逸な表紙になっています。広角レンズであおったドラム缶の大きさの表現も見事。イベントが行われる場所が国の登録記念物であることを記す特集のフックになっていることも、紙面企画がしっかりと練られていることの証です。

会長賞

京丹後市 広報京丹後 12月号 p 1
うめだ じゅんき
(梅田 准揮さん)



(審査委員講評)

船とペンライトの光がとても美しく、漁師さんだけではなく、見送る人々をシルエットで写したことによってストーリーが立ち上がってくる印象的な表紙写真に仕上がっています。背景の黒がしっかりと締まっており、船のライトが少しハレーションをおこしている様も綺麗です。撮影者はセンスも技術力もあるので、市民の方々をしっかりと捉えた写真も見てみたいです。

知事賞

宮津市 広報みやづ3月号 p 1
ながい あやか
(永井 彩花さん)



(審査委員講評)

旅立っていく若者と関係人口についての特集記事のトップとして、芯の見える表紙。各人のやわらかな表情、練られた背景、人物と背景の被写界深度のバランス、青みがかった色のトーン、横三つに区切ったレイアウト、キャッチコピーや文字の置き方等、すべてが考え抜かれています。三人の表情の自然さを引き出した撮影者の人柄も伝わってくる、素晴らしい組写真です。

会長賞

京丹波町 広報京丹波7月号 p 2、3
にしむら こうき たにぐち りか
(西村 公貴さん 谷口 莉花さん)



(審査委員講評)

圧巻の11ページ特集(裏表紙を入れると12ページ)を引っ張っていく組写真です。実際の舞台を見ていなくても、魅力と迫力が伝わってくるのが見事。左端右端の内側を向いたキリヌキも見る者を記事に集中させる装置として効果を生んでおり、写真の組み合わせ方もヨリヒキ、望遠広角と幅広く見ていて飽きません。ふたりの生からパワーをもらうような、力溢れる見開きです。

知事
賞

京丹波町 山城 ～地域への誇りを育む 歴史の舞台～



(審査委員講評)

山城というコアなテーマをここまで地域の魅力資源として映像化している点が素晴らしい。様々な角度で山城を取材されているため内容に厚みがあり視聴者がのめり込んでいく映像構成となっている。カメラのアングル、カメラワークもこだわりが感じられ全体のクオリティーを上げている。何より小学校での授業は単に「こういう授業をしています」と入れるのではなく子ども達が授業を通して何を感じ取っているか？という部分を現場映像を使って表現している点が素晴らしい。制作者が民放ではなく市町村の広報として映像を制作しているという軸がしっかりしているので、民放ではない町民の心を掴む作品となっている。

会長
賞

亀岡市 【感動】子どもたちが描く未来！亀岡発！ 環境紙芝居プロジェクト



(審査委員講評)

映像の質感、アングル、画角、カメラワークが素晴らしい。単に美しい映像を撮るのではなく何を伝えたいかが明確に理解されている。構成もブロックごとに何を表現し何を伝えたいか一つひとつの映像にメッセージが盛り込まれており、このイベントが市にとってどういう意義を持ち、子どもたちが何を感じ取っているかまで伝わるものとなっている。広報としての担当者の意識の高さを感じ取れる作品だ。

知事
賞

福知山市 明智さんのシセイカツ



(審査委員講評)

SNS動画で一番重要なインパクトが強い映像となっている。市役所だけで制作すると市民は白けてしまうが高校の演劇部や市民演劇の参加者など市民を巻き込んだ参加型の企画になっている点も良い。制作本数も市政の課題である5つのテーマから全21本。撮影場所も福知山市のPRとなる場を選定しているなどきめ細やかさを感じる。SNSに合わせた短い尺の中でコメントの精査など担当者のこの企画に対する強い思いを感じる。

会長
賞

宇治市 ワールドマスターズゲームズ開催記念宇治市長杯 アルティメット競技宇治大会参加チーム募集



(審査委員講評)

まだマイナー競技であるアルティメットの競技のスピード感とワクワク感が出ており良い。単に競技のシーンを繋ぐだけでなく市民が繋いでいく構成を盛り込むことで「誰でも参加できる」「皆で盛り上げていこう」という意図が表現できている。市長の出し方も間違うとそれまでの映像が台無しになるが、ポロシャツを着て声を張っていることで映像の流れを壊さずにちゃんとPRにつながっている。